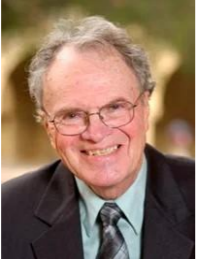

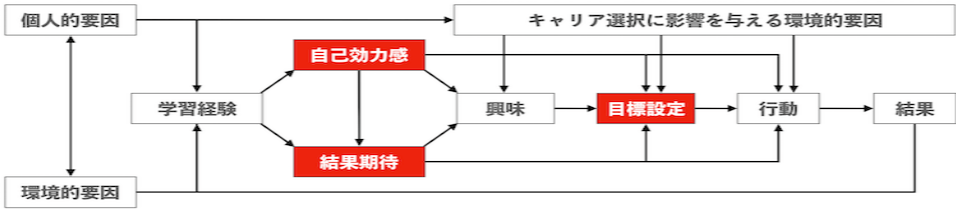





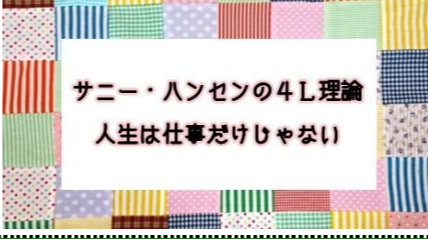

■C01 キャリア理論一覧

重要度	理論家	何にこだわったか	理論・理念、研究テーマ、構成要素	キーワード	その他
A_【特定因子理論】					
★★	パーソンズ 	職業選択においては、自分自身、自己の適性、能力、興味、希望、資質、限界、その他の諸特性を明確に理解することが重要	特定因子論		職業指導の創始者（木村周氏）
★★★★	ホランド 	☆ホランドの六角形モデル 	・人の基本的性格（6つのホランド・タイプ） ・個人の性格的特性と、その個人が満足を得られる職業、労働環境等との間に関係があるかを分析した	・スリーレターコード ・RIASEC ・分化 ・環境	・CPS-J ・本：キャリアの心理学【第2版】第3章
★★	ロー	幼少期の家庭環境や養育態度が人格の形成に影響し、職業選択を方向づける。	早期決定論		
★	ウィリアムソン	大学で進路指導をする中で、精神分析とは異なるカウンセリングの基本的概念を作った			
B_【職業発達理論】					
★★★★	スーパー 	・自己概念 	・個人のキャリア目標の達成 ・仕事の重要性研究 ・個人は職業選択を通じて自分の「職業的自己概念」を実現しようとする。 ・5つのライフステージ「成長期」「探求期」「確立期」「維持期」「離脱期（下降期）」	・職業的発達段階 ・ライフステージ（マキシサイクル） ・ライフロール ・ライフキャリアレインボー ・アーチモデル	・職業的成熟 ・職業的適合性「能力」と「パーソナリティ」 ・本：キャリアの心理学【第2版】第2章
★	キンズバーグ	職業選択は長い年月を通して発達過程が見られる→「発展段階説」	職業選択の過程は非可逆的であったが、後に非可逆性は絶対的ではないと修正した	プロセス、非可逆性、妥協	キャリア発達を最初に理論化した人（木村周氏）



■C01 キャリア理論一覧

重要度	理論家	何にこだわったか	理論・理念、研究テーマ、構成要素	キーワード	その他
C_【社会的学習理論】					
★★★	クランボルツ 	職業選択の意思決定に影響を与える要素 ①先天的な資質 ②環境条件や出来事 ③学習経験 ④課題へのアプローチ・スキル	・「偶然の出来事は人のキャリアに大きな影響を及ぼし、かつ望ましいものである」	・ハップンスタンス・ラーニング・セオリー（1999年の論文）	・偶然の出来事をチャンスや好機に変える5つのスキル ・本：キャリアの心理学【第2版】第6章 ・web-cources映像あり（14分）
★★	バンデューラ 	自己効力感	社会認知的キャリア理論（SCCT）	三者相互作用（個人的要因、環境的要因、行動）	・認知 ・代理学習（モデリング）
★★	レント、ブラウン、ハケット	 <p>社会認知的キャリア理論（SCCT）</p>		3つの概念 ・自己効力感 ・結果期待 ・目標設定	
D_【意思決定理論】					
★★	ジェラット	晩年は「不合理性も受け入れるべき」	意思決定理論	連続的意思決定プロセス→積極的不確実性へ理論を転換	・本：キャリアの心理学【第2版】第5章
★★	ヒルトン 	キャリアでの意思決定のしくみ→機械的な意思決定回路	・意思決定理論 ・認知的不協和理論	意思決定プロセス	”個人の自己概念や希望などの前提”と”外界からの情報”との間に生じた「不協和の解消」が意思決定プロセスである。
<p>★「不協和」のイメージ 新しい地位への誘いがあった場合、魅力的だが自分にはスキルがないかもしれない。よって迷いが生じる。もし耐えられずと受け入れた場合は意思決定がなされたことになり、耐えられない場合は「再調整」が行われる。「再調整」とは、不協和解消のために情報収集したり、自己概念を見つめ直す等の行為。</p>					

■C01 キャリア理論一覧

重要度	理論家	何にこだわったか	理論・理念、研究テーマ、構成要素	キーワード	その他
E_【組織キャリア理論】					
★★★★	シャイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアを「組織」と「個人」の両視点から捉え、その関係性を反映させた理論を提唱している ・組織と個人の関係～「キャリア開発の本質は、時の経過に伴う個人と組織の相互作用にある」 	組織視点  <p>図 シャインのキャリア・コーン(金井壽宏『経営組織』日経文庫より)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織心理学 ・キャリア・アンカー ・キャリア・サバイバル ・キャリア・コーン ・キャリア・サイクル ・外的キャリア、内的キャリア 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が個人に教化しようとしても、個人にはキャリアアンカー（こだわり等）があるので実現しない→キャリアサイクル、キャリアサバイバルの考え方でキャリアを發展させる。 ・本：キャリアの心理学【第2版】第7章
F_【プロティアン・キャリア】					
★★★★	ホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス場面における組織的な要因 ・キャリアには主観的側面と客観的側面がある ・キャリアとはプロセスである（仕事に関する経験の連続） 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織心理学 ・プロティアン・キャリア（変幻自在なキャリア） ・アダプタビリティ＝適応コンピテンス×適応モチベーション 	個人の 心理的成功 、 そのためにはアイデンティティとアダプタビリティが必要	<ul style="list-style-type: none"> ・本：キャリアの心理学【第2版】第8章
G_【統合的人生計画】					
★★★★	ハンセン 	<ul style="list-style-type: none"> ・行きすぎた個人主義による社会、および個人の精神面での課題 ・個人尊重から、自分にも社会にも役立つ仕事へ、という価値観のシフトを推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合的ライフプランニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合的人生設計 ・4L～4つの役割：労働、愛（子育て）、学習、余暇 ・キルト（組み合わせ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピリチュアリティ（宗教的な意味でなく、一人一人が自分自身の意味を理解している中核そのもの） ・本：キャリアの心理学【第2版】第10章 ・web-cources映像あり（11分）
H_【キャリア構築カウンセリング】					
★★★★	サビカス 	<ul style="list-style-type: none"> ・転職があたりまえの時代、しっかりとした「自己感覚（自分は何をする人なのか）」を持っておくことが重要 ・客観性よりも主観。最終目的は仕事の適合ではなく”キャリア観の筋書き作成” 	キャリア構築理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラティブ・アプローチ～マイクロナラティブからマクロナラティブへ ・キャリア構築理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分でキャリアをつくる」ことを「自分の人生物語の著者になる」という言葉で表現している ・本：キャリアの心理学【第2版】第4章 ・web-cources映像あり（2分）

■C01 キャリア理論一覧

重要度	理論家	何にこだわったか	理論・理念、研究テーマ、構成要素	キーワード	その他
I_【動機付け理論】					
★	ハーズバーグ	動機づけ理論	衛生要因と動機づけ要因～衛生要因は不満をいくら取り除いても仕事の満足感は得られない。		
★★	マズロー	動機づけ理論	人間動機理論～欲求5段階説		
J_【転機】					
★★★★	シュロスバーグ 	・自ら望んだ転職で、つらい思いをした→転機とは何か？ ・転機の影響度（3つの要因）、乗り切り方(2段階) ・転機での4つのSを点検、受入	・4つのS 	・転機 ・イベント、ノンイベント	・本：キャリアの心理学【第2版】第9章 ・web-cources映像あり（12分）
★	ブリッジズ	・トランジション（遷移、変化）における3段階 「終わり（何かが終わる）」 「ニュートラル・ゾーン」 「始まり（何かが始まる）」		転機	